

エコイノジャパン

香港の環境配慮型容器メーカー、 横浜から世界の環境スタンダードを全国に

エコイノジャパンは、香港行政区にあるサイエンスパークに本社を構える環境配慮型容器メーカーのエコイノ社の日本法人です。エコイノは2011年に設立された会社で、セルロースを主成分とした環境配慮型容器の製造および製造装置の開発も行っています。コロナ禍、飲食業界ではテイクアウトやデリバリーが急成長しプラスチック容器の使用量が爆発的に増えました。そんな最中、エコイノジャパンは、神奈川県とジェトロ横浜の支援も受け、20年11月、横浜に進出しました。「欧米のスタンダードを日本に広めたい」（劉大維代表）と、ここを拠点に、全国展開を視野に入れています。



語り手：劉大維社長



同社開発のGCMを用いた容器

■環境に優しい素材・GCMをプラスチック容器の代替に

エコイノジャパンは、自社開発の生分解性素材・GCM(Green Composite Material)を用い、使い捨てのプラスチック容器に代わる食品容器を独自製造し「EcoInno」として売り出しています。

容器のまま電子レンジやオーブンレンジ、蒸し器など幅広い調理に使用することができ、マイナス196℃からプラス220℃までという耐冷性と耐熱性に加え、耐油性も持ち合わせているのが特徴です。

また、土壌中では約75日で分解して土に帰ることから、生ごみとしても捨てられる、地球に優しい素材です。

■環境に高い意識を持つ大手企業を中心に普及目指す

プラスチック用品の代替品として市場に出回っている環境配慮型のパルプ容器は、サトウキビの搾りかすである「バガス」を原料として用いています。ただ、耐久性を持たせるために表面をラミネート加工やフッ素系薬剤を添加して加工していることが多く、加熱には向いていません。人体や自然環境に有害な物質が発生したり、ラミネートが溶けたりする場合があります。

われわれは、バガスを原料としながらもラミネート加工やフッ素系の薬剤添加を必要としないGCMを用いて、従来品と変わらない厚さや軽量で高い強度を保ち加熱もできる容器を開発。GCMの製造には、日本で特許を取得している自社開発の装置を用いています。

現在、海外ではスーパーマーケットやイタリアのコーヒーカプセルメーカー、国内ではヴィーガン食品企業などから引き合いがあ

ります。また、日本では冷凍食品、機内食、ケータリング関連など、環境に高い意識を持つ大手企業を中心に普及を目指しています。

■横浜から環境配慮製品を全国に

容器の製造工場では、ISO9001やISO14001を取得。製品は、ヨーロッパやアメリカの環境関連認証を取得。日本ではまだ珍しいですが、生分解性の国際認証も取っています。

日本は世界的に見ても食品包装が丁寧で、悪く言えば過剰でもあります。われわれが作るような素材は海外では普及していますが、日本ではプラスチック容器がいまだに多く見られます。今後は日本でも対応に迫られる企業が多くなると考え、今からプロモーションに力を入れています。

プロモーションの一環として23年9月に東京で開催された展示会に出展した際は、IDEC横浜の「外資系企業国内展示会出展助成」の制度を利用。出展費用の一部助成金を受けることができました。展示会では新たな商談先の獲得にもつながりました。24年2月には、別の展示会への出展も予定しています。

横浜は、大都市圏はもちろん日本全国との交通の便がいいことから重要な拠点と考えています。また、神奈川県は環境施策も盛んで全国的に見ても環境意識も高い地域です。GCMをはじめとしたグリーンテクノロジー材料を横浜から全国に向け、事業を拡大させていきます。

また、GCMやエコイノの認知度を高めながら、県内外で循環サイクルに関する実証実験を進め、今後の日本での展開の方向性を探ってまいります。

(取材日：2023年10月)

EcoInno Japan(エコイノジャパン)株式会社

所在地：横浜市中区海岸通4-17 東信ビル4階

代表者：劉 大維

設立：2020年11月

事業概要：プラスチックに代わる新素材研究開発、繊維パルプ特殊製品の生産開発等

URL：<https://www.ecoinno.co.jp>